

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2385 号

A Validity and Reliability Study of the Japanese Version of the Geriatric Depression Scale 15 (GDS-15-J)

(高齢者用うつ尺度短縮版 - 日本版の妥当性と信頼性)

杉下 和行 (すぎした かずゆき)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、高齢者用のうつ尺度として最も広く使われている尺度の一つである、高齢者用うつ尺度短縮版 (GDS-15) の日本版 (GDS-15-J) の妥当性と信頼性を Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fourth Edition, Text Revision (DSM-IV-TR) のうつ病の診断基準と始めて比較および検証した臨床的に意義ある論文である。カットオフスコアを 6/7 点とした場合には感度が 98%、特異度が 86%と優れた妥当性が示され、GDS-15-J に対するクロンバックのアルファ係数は 0.83 で高い内的整合性も示された。GDS-15-J は内科医などの非精神科専門医にとって、うつ病に対するスクリーニングツールとして有用なものと考えられる。また、カットオフスコアを 5/6 点とした場合には感度が 100%、特異度が 80.3%とうつ病の除外に有用であるという結果が得られた。現在アルツハイマー病に対する新薬の治験が数多く進行中であるが、アルツハイマー病とうつ病の鑑別に GDS-15 は役立つとされており、GDS-15-J もうつ病の除外が必要な臨床試験を行う際にも有益と思われる。よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。